

(n=4)では非投与群(n=7)に対し有意にBP値の低下を認めた。精神疾患でのBP定量測定は向精神薬のBZRへの影響やBZRの活動性の評価に有用性があると考えられた。

### 5. 頭部領域の<sup>201</sup>Tl SPECTの検討

三浦 弘行 淀野 啓 西 直子  
高橋 聡 阿部 由直 (弘前大・放)

[はじめに] 頭部の<sup>201</sup>Tl SPECTの有用性、適応について検討した。

[対象と方法] 1995年8月から1996年9月に当院で行われた頭部<sup>201</sup>Tl SPECT 56例の画像を視覚的に検討し、CTやMRIとも比較した。3検出器型の装置で撮像した。

[結果・考察] 脳腫瘍の描出のsensitivityは70%、specificityは87.5%であった。gliomaの陽性率は高くなかった。9mm以下の腫瘍でも描出された例がある一方、大きくても集積の認められない腫瘍もあった。非腫瘍性病変ではgranulomaの1例以外集積しなかった。腫瘍以外の脳実質に関する情報はほとんどなかった。CTやMRIとの比較では、腫瘍と非腫瘍との鑑別、治療効果の判定などのほかは、これらを上回る情報は乏しいと考えられた。

### 6. <sup>99m</sup>Tc-MIBI 腫瘍シンチグラフィの放射線治療後における比較検討

尾野 英俊 山本和香子 秀毛 範至  
高塩 哲也 薄井 広樹 川口 香織  
吉田 弘 油野 民雄 (旭川医大・放)  
佐藤 順一 石川 幸雄 (同・放部)

放射線照射の適応例に対し放射線照射による治療効果を10 Gy照射した段階で<sup>99m</sup>Tc-MIBIによって推測可能なかを検討した。対象はglioblastoma 3例、meningioma 1例、非ホジキン病 3例、ホジキン病 1例、食道癌 5例、肺癌 1例、子宮頸癌 1例、子宮頸癌の脳転移 1例の計16例。照射前に集積を認めたのは16例中13例(81.3%)であった。16例中、10 Gy照射前後にMIBI SPECTを施行した6例(治療効果NCのものが3例、PRのものが3例)に対し、摂取率(T/N比)の比較を行った結果、T/N比と治療効果の間に

は有意な差が認められなかった。したがって、10 Gy照射した段階で<sup>99m</sup>Tc-MIBIによって、治療効果を推測することは困難という結果になったが、症例数が少なく、さらに症例を集め再度検討が必要と考えている。

### 7. ニューロブラストーマの<sup>123</sup>I-MIBI シンチグラフィ

吉岡 清郎 佐藤多智雄 福田 寛  
(東北大・加齢研・機能画像)

神経芽細胞腫の<sup>123</sup>I-MIBI シンチグラフィによる診断感度および有用性を検討するため、マスキリング陽性例で治療前の10症例のシンチグラムを、臨床経過と共に検討した。10症例すべてで腫瘍部に陽性集積が認められたが、その腫瘍部陽性集積の強度はさまざまで、肝の集積強度との対比から3段階の集積強度として評価することができた。この集積強度は腫瘍の大きさのみには依存していなかった。また、Stage IIIの判断から術前化学療法が行われた症例で、腫瘍が縮小したにもかかわらずMIBI集積が化学療法前に比べ治療後に有意に強くなった例を経験した。腫瘍の部位によってはMIBIによる検査をスクリーニングに続き使用できる可能性が考えられ、また、腫瘍の集積強度の相違は貴重な臨床情報につながる可能性が示唆された。

### 8. Malignant lymphoma 患者における<sup>67</sup>Gaの肺野びまん性集積例の検討

望月 孝史 鐘ヶ江香久子 加藤千恵次  
志賀 哲 山室 正樹 中駄 邦博  
伊藤 和夫 玉木 長良 (北大・核)

[目的] 胸郭近傍への放射線照射により、肺のびまん性集積に影響が見られるか検討した。[症例] 1990～95年に北大病院にて治療後2週間以内に<sup>67</sup>Gaシンチを施行した115例で、治療の内訳は、放射線照射のみ3例、化学療法のみ63例、放射線化学療法併用49例であった。[結果] 化学療法のみ群と放射線照射を施行した群の間には肺野のびまん性集積の出現に有意な差は認めなかったが、胸郭近傍に照射した群とその他の部位に照射した群の間には有意差が認められた。[結語] 胸郭近傍への放射線照射は、Malignant